

高い次元での  
文武両道を目指す姿勢が  
高い評価を受けました。

## 県内国立大学推薦入試で 巨摩高が合格者数1位に!!

- 1 3年間部活動をしっかりやっている。
- 2 欠席・遅刻・早退が極めて少ない。
- 3 定期テストに1年生の段階から真面目に取り組み、5段階評価が高い。
- 4 ボランティア活動を経験している。
- 5 コミュニケーション能力が高い。
- 6 校則違反をしていない。

大手進学情報会社の調査によると、山梨大(医学部医学科を除く)・県立大・都留文大の推薦入試で、巨摩高校の合格者数が28名となり、県内全高校の中で1位となったことが判明しました。

勉強も部活も一生懸命に取り組む、つまり、「高い次元での文武両道」を目指す姿勢が、県内の国立大学で高く評価されたといえます。

長引く不況で、学費の安い国立大学を希望する受験生は増加傾向にあり、本年度の入試もかなり厳しいものでした。3年生は、1年生の時から「進路学習」や「小論文学習」に取り組み、長い時間をかけて準備をしてきました。それが見事に結実したのです。

国立大学に限らず、推薦入試合格者にはいくつか共通点があります。

### 特集 推薦入試の指導と実績



Passion.  
a mission and an action.

## 熱意と使命感と 行動力 校長 山中 泉



「日本を科学技術立国とするために国際感覚のある理系学生の育成を」という意見を宇宙飛行士の野口聡さんが国立大学協会情報誌JANU12月号に掲載されていました。

要点的な第一点は「科学技術が日本を強くする」です。多くの若い人に、日本の将来、つまり自分たちの将来のために、科学技術が重要であるということをもっと意識してもらいたいことを強調しています。そのために科学力や技術力の大切さを説き、理系に進むことに魅力を感じる環境をつくることを挙げています。例えば、科学の最先端を見せたり、子どもたちが興味を持つような科学や技術のイベントを開催することを提案しています。第二点は「英語能力の向上を図ろう」です。国際的な仕事をするためには、語学力は付加価値ではなく、前提条件であり、使え

なければいけないツールなのです。例えば、学生にとってパソコンが使えることが常識であることと同じ感覚で、英語を使えるようになる必要がある事を強調しています。

このことを高校段階で実現する方策としてスーパーサイエンスハイスクール(SHS)事業があります。現在全国で約100校近く指定を受け様々な事業・企画・研究発表が展開され、現在理数コースを抱える本校の将来目指すべき方向のつとを考えています。

3月に卒業する生徒諸君に、また巨摩高校の将来の展望に向けて、混迷する世の中を打破するキーワードは、パッション、ミッション、アクションです。自分の置かれた状況の中で、熱意と使命感と行動力を持って共に成長していくことを大いに期待したい。

●合格体験記  
都留文科大文学部  
推薦合格  
野呂瀬亮(楡形中卒)

まさに「高い次元での文武両道」を実践したといえます。

1、2年生の皆さんは、まだ進路決定は先のこと、受験には関心が薄いかもしれませんが、3年間の日々の積み重ねがとて大切であることは、肝に銘じておいて下さい。

推薦入試でも一般入試でも、生徒の希望を叶えるため巨摩高校の先生方は全力で皆さんを支援してくれます。早めに進路目標を決め、それを実現するには今日から何をしなければいけないか、よく考えてください。

3年間野球部を続けながら合格の栄冠を手にできました。感謝します。

さて、国立大学の一般推薦で大切なのは、日々の授業や家庭学習と難物の小論文です。これはとても丁寧な指導をいただきました。

初めは何度書いても担当の先生からダメ出しをされ、閉口気味になりました。しかし、指導のおかげで、過去問題に共通する文脈が私の中で言葉としてまとまってきました。本番ではこれが当たりました。

また、私には鬼門の古語、古典文法についても、「文法の教科書は一晩で覚えらるる」「古文単語は1週間で300語」と叱咤され、何とかクリアしました。

よくやったものだと思えます。

### 巨摩高にゆーす

## 「巨摩フェスタ'11」開催

2月5日(土)、南アルプス市楡形生涯学習センターにおいて、文化部合同発表会「巨摩フェスタ'11」が開催され、各部が日頃の活動の成果を披露しました。



障害者の方々やお年寄りもノリノリで楽しんでいただけたと思う。／ボランティア委員会

高校生の明るさと温かさが伝わってきた催しでした。来年は友達も呼んできたいです。／保護者

歌いながらの手話を会場の人々がみんなやってくれました。一体感が感じられてうれしかったです。／音楽部